

品川区いじめ根絶協議会（第1回）議事録

実施日時：令和元年7月4日午後2時から午後4時

会 場：教育文化会館 第一講習室

1 品川区教育委員会 教育長挨拶

2 委員紹介

3 報 告①

＜事務局より、「品川区いじめ防止対策の取組」の説明＞

4 報 告②

＜事務局より、「いじめに関する調査結果概要」の説明＞

5 DVD 視聴 「SOS の出し方に関する教育を推進するための指導資料」

6 協 議

テーマ「児童・生徒が『SOS』を表せる学校・地域・関係機関の相談体制について」

＜グループ協議・協議内容の報告＞（要旨）

【第1グループ・A委員】

学校以外の信頼できる大人とは具体的にどのような人がいるか協議した。第一に町会等の通学路等で見守りを行っている地域の方。第二に専門の相談機関 HEARTS など。第三にコンビニの店員・店長など。コンビニは現在、子ども110番の場所にもなっており、生活圏が近い近隣の方が顔を合わせたりする、店長が地域の方の場合もあるので、地域の拠点にもなっている。

【第2グループ・B委員】

割合としては僅かであるが、自ら SOS を出せない子どもへ向けて何か手助けできることはないか協議した。

地域の通学路等で見守りを行っている方に協力してもらおう。通学の時などに、元気がない子どもへの声掛け、情報提供をしてもらおう。ただ、地域でこのような活動の担い手になってくださる方はまだまだ、若い方が少ない。また、普段から学校などで接している教員などは、困ったときの相談機関を把握して、支援が必要そうな子どもまたはその親へ、さりげなく相談機関を紹介したり、つなげていくことが大事。心を開けるような適切な相談期間へタイミングをみてつないでいくことがポイント。SOS を出せない子は限られた人数なので、一般的に周知するだけでなく、重点的支援していく方法を検討する必要がある。また、複数の救済ポイントを用意することも必要、学校の担任、親、SSW、SC など複数の関わりがあれば、どこからか心を開いて相談できる可能性が高まる。

【第3グループ・C委員】

- ①DVDは児童・生徒は全員視聴している。DVD視聴後にアンケートを行っている学校もある。視聴したDVDの児童・生徒の反応を聞いたところ、最後の歌が印象に残っているという意見も多かったそうなので、DVDの活用方法として、年に1回視聴させるだけでなく。歌だけでも、週に1回お昼休みに放送するなど、子どもが支援を必要とするタイミングで耳に入るようにする機会を作っていくことが重要。
- ②児童・生徒は誰に相談するにしろ、解決してくれる人を選んで相談する。逆に、相談しても解決できる見通しが持てない場合は相談できないという子どもの心理があるのであれば、なかなかSOSを出せない子どもへのアプローチは難しい。(大人を信用していない場合は、なかなか相談してくれないなど。)
- ③通学路で見守りをしている地域の方は、児童・生徒のことで気付いたことがあっても、発見した場面が明らかないじめの場面でなければ、学校にも情報提供し難い、また自ら子どもへ声掛けするにしても、中には警察に通報されてしまうケースもあり、声掛け・情報提供が難しいと思うことも多い。あいさつだけで、なかなか踏み込めない。また、子どもは各場面で見せる表情が違うので、家庭・学校・地域がより連携していくことも課題。具体的にはそれぞれの立場の個人と個人が顔を合わせて、繋がれるような機会が多くあるとよい。
- ④本当に深刻な状態にある児童・生徒は「悩んでいること」や「不安」を自覚しておらず、援助希求力が低下している状態にある。このような子どもを救うためには、子どもの訴えを待つだけではなく、様々な立場の周りにいる大人が子どもを支える、君を見ているよというサインを送り続け、自分が見守られているという感覚を持てるような環境を大人の側が作っていくということが必要。

【第4グループ・D委員】

誰にも相談できない子ども達をいかにサポートするか

- ①先日、学校からシグナルカードのチラシ「地域の皆さんへ いじめの気配の発見にご協力ください」という内容の配布があったが、このようなチラシが配られるだけでも地域で見守ろうとする意識も生まれるし、実際に情報発信しやすくなる。
- ②地域での子どもを含めた住民同士の交流が減っているが、防災訓練などを通して地域交流を図っていくことは、今後とも必要。
- ③各相談窓口については、受けたところでできる限り責任を持つ、複数の機関が関わる必要がある場合はチームを作って対応する。
- ④SNSやLINEなどの目に見えないいじめがある場合、いじめの現場を発見できないため、子どもの様子や言動などから察するしかなく、周りは気が付きにくい。家庭によっては、一人親家庭、共働きなどで、子どもとの密なコミュニケーションをとれていない場合もある。
- ⑤警察と連携すべき事案では、暴力行為などのいじめの現場を見たときは110番通報、事件化していく場合もある。その際、加害者を追い込まないようケアしながら、他の機関とも連携し対処していく必要がある。警察で話を聞く中で、必要がある場合には、学校等各機関へ情報提供している。

【委員長】

意見のまとめ

これまで、根絶協議会で子どもの SOS を受け止める相談体制について、議論してきたが、学校や HEARTS をはじめとする専門機関の体制は充実してきた。地域というところは大切であるという認識はあったが、充実・連携の部分で具体的にどのように進めていけばいいのかというところまで、議論が至っていなかった。

子どもにとって、地域は以外と見えにくい。子どもにとっての地域とは、自分の小学校、中学校の周りというイメージ、地域で関わっている大人一人一人がもっとアピールしていかないと、信頼できる大人、相談できる大人という認識を子どもは持ってくれない。

DVD の中で、信頼できる大人を 3 人見つけましょうというのがあったが、第一の大人は両親、第二の大人は教員・塾の先生・スポーツクラブの指導者、第三の大人は近所に住んでいる方達、今は近隣との人間関係が希薄化しているので、今の時代は商店街・コンビニも含めて様々な人が積極的に第三の大人になって欲しい。そうしていくことで、相談できる人・機関を増やしていく。医療でいえばセカンドオピニオンを子どもが求められるような、頼れるのは 1 人だけじゃないという二重構造のようなことを子どもたちが認識してくれると、SOS を発信できない子どもを減らせるのではないか。

6 終わりに

教育委員会事務局次長挨拶

7 閉会